

# 地域活性化を目指した地域文化の再生・継承と地域資源の活用研究 —上黒丸地区の調査・研究と旧上黒丸小中学校の有効的な利活用—

指導教員 金沢美術工芸大学 美術科 教授 中瀬康志

参加学生 尾崎太亮・織田桃代・龍ヶ江耀介・仲駿輔・西野唯衣・村田優大・寄田茜

## 1. 調査研究成果要約

珠洲市の代表的な里山である上黒丸地区に滞在し現地調査と地域住民へのリサーチ等を行った。その調査、リサーチに基づきアートという表現活動によりいかに地域交流、地域活性化に繋げることができるかについて研究を行った。今年度開催された奥能登国際芸術祭2017の参加プロジェクトである「上黒丸アートスフィア」の連携企画として、旧上黒丸小中学校の校舎を活用した「幻の村アートキャンプ2017」を企画、実行した。

## 2. 調査研究の目的

\*限界集落とされる珠洲市山奥、上黒丸地区において地区の特性を探るフィールドワークによる現地調査や地域住民へのリサーチを行い、廃校となった旧上黒丸小中学校の校舎の継続的な活用を視野に展覧会やイベントを企画、実行し、地域の新たな価値観の創出を試みる。

\*奥能登国際芸術祭2017と連動し、同時期開催による表現活動を行うことで市民、地域住民との相互交流を図り、圏外の人々と現地の人々との交流の場を作ることを目的とした。

## 3. 調査研究の内容

4月～7月／前年度までの活動記録や写真資料をもとに、大学内にて定期的に会議、ディスカッションを重ね、今年度の活動の方向性を定めていった。今年度開催された奥能登国際芸術祭2017との関係を考え、「上黒丸アートスフィア」の連携企画として「幻の村アートキャンプ」と題した展示やワークショップを行うことなどを話し合った。

8月14日～19日／現地調査を敢行。フィールドワークや地域住民の方々へのインタビュー、リサーチを行い、上黒丸地区の現状や廃校前の小中学校の様子などの貴重なお話を伺った（図1、図2）。現地の情報を合わせて、作品のより具体的なプランを練っていき、草刈りや掃除などの作品設置場所の整備（図3）や旧上黒丸小中学校の校舎、体育館、空き教室などの利用方法を検討した。

8月25日／屋外立体作品設置のための穴掘りを地元建築関係者ご協力のもと行う。（図4）

図1



図2



図3



図4



8月28日～31日／ 地元婦人会の方々の協力のもと、旧上黒丸小中学校の体育館に作品制作と設置を行う（図5～図7）。過酷な炎天下の体育館での作業となったが、地元住民の方々の多くの力強いサポートもあり無事に作品設置を行うことができた。作業中には縁談や結婚、田畑管理の変遷や過去に起こった火事や地震などの災害といった地域にまつわる話も伺うことができ、地域の方々との深い交流にも繋がると共に、作品制作の上で人や土地の性質を知ることができたのは貴重な参考となった。

図5



図6



図7



9月8日～15日／「幻の村アートキャンプ」開催にむけての作品制作、展示準備を行った。同時に8日には現地調査の一環として地元のキリコ祭りに応援参加（図8）。奥能登独自の文化に直に触れ、地域文化、風習への理解を深めた。11日には午前と午後の二回に分けて若山小学校の全児童の訪問があり、滞在制作中の学生による旧上黒丸小中学校の学内ツアー、作品紹介を行った。児童の羨望とした姿に圧倒されると同時に、作品に対する関心の強さも感じられ、教育的な側面も含めこうした交流は今後も継続していけることを願った。

図8



9月16日～10月22日（滞在期間9月16日～24日）  
 展示・ワークショップの企画である「幻の村アートキャンプ」開始。この企画の大きな目的でもある地域住民と外部との交流の場を演出するため、作品をただ展示するだけでなく、作品解説やワークショップ、パフォーマンスを行うことで地域住民をはじめ、展示に来てくれた方々とのより深い交流の場を創作した。

会期中の19日には地元公民館の方々の訪問があり、作品解説や体験型作品を通じて、アート作品の楽しみや力をより身近に感じてもらうことができた。

(図9、10は西野唯衣の作品を体験して喜ぶおばあちゃん。図11は作品解説をする尾崎太亮)



図9

図10



図11



「幻の村アートキャンプ2017」—参加学生作品・ワークショップ—



・ワークショップ  
～パンの彫刻を作る～  
実際に食べることのできる人型のパンを作るワークショップ



・屋外空間を使った、中にも入ることができる、体験型作品



・パフォーマンス  
～野犬の音楽～  
野犬に扮した作家によるパフォーマンス



・体育館全体を使った  
インスタレーション作品

・廃校舎内の空き教室・廊下  
を利用しての作品展示



図12



10月28、29日、11月11日 作品搬出・後片付け  
作品搬出も地元婦人会の方々のご協力のもと行った。(図12)  
作品に使われた着物は、石川県内にある丸六という会社から文化活動を目的にいただいたもので、再活用を目的にいくつかの着物を地元婦人会の方々に提供。地元婦人会と協力しての来年度以降への活動につなげた。  
(図13は着物の提供をしてくださった丸六の方々と学生。)

図13



#### 4. 調査研究の成果

総来場者数：約7000人

奥能登国際芸術祭と同時期に開催したことにより、多数の来場者に来て頂くことができた。

多くの地元住民の方々との深い交流や地元行事への参加を通じ、上黒丸地区独自の文化を知ると共に、強い信頼関係を構築することで、今後さらなる研究活動の礎を築いた。また、共同作業や作品の解説などを通して、地域住民の方々にアート表現の持つ意味や楽しさを体現して頂きより身近に感じてもらう場を創出することができた。

長期に渡る活動によって、国の補助金活用などで廃校小学校の環境整備が一段と進み、避難所や地域住民の会合場として大きく活用できる環境となった。

以下「幻の村アートキャンプ」会期中に実施した来場者アンケートの結果（一部抜粋）

「10年ほど前に離れた学校が、このような形で生まれ変わって大変喜ばしいです。」

「廃校に展示されているというなんともノスタルジーあふれる空間がすごくいいと思います。」

「珠洲にはよく来ますが若山には初めてだったのでいい機会になりました。」

「旧校舎の利用をしていただきありがとうございました。」

「こういう機会があれば良いと感動いっぱいさせていただきました。」

「なつかしい校舎を広々と使って若山らしさが出ていると思いました。ありがとうございました。」

「奥能登芸術祭の作品同様楽しめました。」

#### 5. 来年度の調査研究計画

①冬のプロジェクトとして、2月中旬に「幻の山に登る」を行う。前年度も行った企画だが、積雪量の関係で前年度は幻の山を見ることができなかった。冬シーズンの上黒丸地区の持つ価値を、継続して視覚的な形で表現するための企画として再度挑戦する。

②廃小中学校の利用方法の提案として、野外立体作品設置と散策コース（美の回廊）の計画を進める。廃小中学校の周囲に野外立体作品を設置することで、定期的なメンテナンスを行い、廃小中学校の外部環境を整える（草刈りや道の整備）一躍を担う。地元住民へ場を解放し、アートを媒体とした活動により地域活性化の一助となるよう継続する。

③廃小中学校の内部空間の環境整備。金沢美大、珠洲市との連携協定の協力関係も確認しながら、教室、廊下といった場所の再利用方法として、「校舎ギャラリー」とみなした展示空間としていく計画を進める。

#### 6. 調査研究に対する地域からの評価

作品展示は館外に1点、館内に5点と作品も多く、また玄関や廊下などにも興味深い小作品が展示され、空間をうまく活用し、小美術館のように構成されていた。作品は、上黒丸地域の持つ特性や課題を想起させてくれるものであった。作品の説明や手作りパンを使ったワークショップ、犬に扮したパフォーマンスなど住民との交流の場の設定もされるなど、たくさんの人が訪れ、味わい、楽しんでいた。地域に溶け込み、地域を元気づける作品公開で当地域の活性化に大いに役立っている。